四　国	国立香川小児病院産婦人科	夫　律子
九　州	宮崎大学附属病院産婦人科	金子　政時
	九州大学附属病院産婦人科	藤田　恭之

IV．風疹予防接種対策

1．CRS根絶のために

風疹とCRSは予防接種により根絶可能な疾患である。アメリカではすでに風疹患者そのものがゼロに近づきつつある。妊娠可能な女性だけを対象にワクチンを接種しても、約5%は抗体が陽転せず、また獲得した抗体も徐々に低下するため、流行そのものを抑制しない限りCRSは根絶できない。現在、風疹予防接種率を上げるための対策が進められている。産婦人科は、妊婦や、妊娠を希望する女性が受診する科であり、抗体陰性者を見つけて予防接種をすすめる絶好の機会を有する。
予防接種を施行したら、接種証明書の発行や、母子手帳に記載する。費用は自費で、病院ごとに決められている（およそ数千円）。

2．妊婦の家族への予防接種

20～30代の男性の抗体陰性率が非常に高い[2]。夫や上の子が風疹を持ち込みCRSが発生したケースが実際に存在する。妊婦はワクチンを接種できないので、特に抗体陰性妊婦の家族は男女を問わず風疹予防接種を受けるべきである。妊婦の家族にワクチンを接種しても妊婦への影響はない。また抗体を持っている人に接種しても全く差し支えはない。

3．産褥や妊娠可能年齢女性の風疹ワクチン接種

妊娠初期検査で抗体陰性または低抗体価であることがわかったら、妊娠中は風疹ワクチンを接種できないので、分娩後に風疹予防接種を受ける。産褥早期の接種がすすめられている。授乳中でも差し支えはない。産褥入院中でも一ヶ月健診頃でも構わないが、接種漏れのないように努力したい。接種したら、母子手帳の産褥経過記入欄に記載する。
妊娠以外の目的で産婦人科を受診する女性に対しても、抗体検査や予防接種の機会を提供し、ワクチン接種後2カ月間の避妊を指導する。ただし、風疹ワクチン接種後に妊娠が判明したり、避妊に失敗したりしても人工妊娠中絶をする必要はないとされている。全世界的にこれまで風疹ワクチンによるCRSの報告はない。

4．産婦人科に勤務する者への風疹ワクチン接種

妊娠初期の婦人に接する機会の多い産婦人科や小児科勤務のスタッフも風疹予防接種を受けるべきである。

参考文献

1）風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言
厚生労働省ホームページより

風疹と母子感染

2）風疹の現状と今後の風疹対策について
国立感染症研究所　感染症情報センターホームページより

3）種村光代：風疹――妊娠中の風疹罹患への対応．
周産期医学32(7)：849-852，2002

4）加藤茂孝，千場　勉：風疹IgM抗体はいつまで検出されるか．
臨床とウイルス23(1)：36-43，1995